



キャンプの場面に似合う かっこいい刃物をプロデュース

西奥さんに、商品化された「オー
チョキャンプ」の『マウンテンマチ
エツト(山型鉋)』を見せてもらった。
ギラリと銀色に輝く磨き上げられ
た刃は、手にすると怖いほどに鋭い。
この銀色が、西奥さん最大のこだわ
りだったという。

刃を硬くするための焼き入れとい
う工程で、金属は酸化して黒くなる。
通常土佐打刃物では、この黒い酸化
皮膜をあえて残す黒打ちという仕上
げ方をする。これはこれで無骨な魅
力があるものだが、昨今のキャン
プシーンを考えたとき、西奥さんは全
て銀色に磨き上げたいと考えていた。
「キャンプを愛好する人たちは、自
分のお気に入りのテントや、こだわ
りのテーブル、おしゃれなイスを持
ち込んでキャンプをします。新しい
道具を探すとき、それらのアイテム
に似合うものを選びたいと思ってい
るはず。それには、黒い部分は残さ
ずに、かっこよく磨き上げた方が絶
対にウケると考えました」

西奥さんは鍛冶屋の世界につてが
なく、『高知県ものづくり地産地
消・外商センター』に相談したとい
う。ここは、ものづくりのアイデア
がある人と、ものづくりの技術を持
っている人を引き合わせ、マッチン
グすることで、県内での新しいもの
づくりを応援する組織だ。
そして『土佐刃物流通センター』
を紹介され、計画が動きだした。

土佐の鍛冶屋は 注文どおりの刃物を造る



世ノ本鍛工所の世ノ本貢さん



オーチョキャンプこだわりのアイテムたち



土佐打刃物には実にいろいろな種類の刃物がある



オーチョキャンプの西奥起一さん

伝統の品質は折り紙つき あとはターゲットにどう見せるか

伝統の製品に新しい性格を与える

「私が描いている刃物のイメージを、
土佐刃物流通センターの方に伝えて
交渉するときには、高知県ものづく
り地産地消・外商センターの担当者
の方が同席してくれました。受け継
がれてきた伝統の仕事と、私がつく
りたい刃物のイメージをすり合わせ
ていくのに、間に入って交渉を進め
てくれました。これは本当に助かり
ましたね」

そうした交渉を経て、土佐刃物流
通センターを通じ、ついに「世ノ本
鍛工所」にマウンテンマチェツトの
発注がかかる。キャンプ用の刃物を
注文されてどんな風を感じたか世ノ
本さんに聞いてみると、一瞬きよと
んとした顔になって、
「あー、あれキャンプ用なんですか。
変わった注文やとは思いつたがで
すよね。普通全部は磨かんし」

キャンプ用とは知らなかったとい
う。しかし笑いながら、
「あれは斧みたいなけど枝打ちとい
う山師が使う鉋の一種。磨き上げた
らかっこよくなりましたね、見た目
が。切れ味は変わらんけど。僕らは、
丈夫でよく切れるように造るだけ」
土佐の鍛冶屋は、注文どおりの刃
物を造る。そううたわれるのは、歴
史の中で研ぎ澄まされてきた技術が
あつてこそのことだ。

そうして造られてきた昔からの製
品も、アプローチの仕方を変えるこ
とで新しい販路に出会うことがある。
マウンテンマチェツトは、インタ
ーネットを通じて販売されるや、ア
ウトドア雑誌で多数取り上げられ、
完売を繰り返す人気商品となった。

「キャンプを愛好する人たちには、
上質で、長く使うほどに愛着が湧く
ような道具を求める人が多い。土佐
打刃物は、その要求にぴったりと当
てはまるのだと思います。品質は折
り紙つきなので、あとはターゲット
を定めて、その人たちに響く情報発
信をすることが大切だと思っています」
と、西奥さんは言う。

土佐刃物流通センターでは、『Z
AKURI』ブランドとして、伝統
を生かしながらも新しいチャレンジ
をした商品を多数つくり出すなど、
独自の取り組みもある。

キャンプは切り口の一つ。まだ見
ぬ販路はきつと他にもあるはずだ。
土佐打刃物が持つさまざまな可能性
を、もっと見てみたい。

伝統工芸の可能性を拓く 新しい切り口

